

多気町 各種がん検診等のご案内

がん検診の目的は、**がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減らす**ことです。
検診は**症状のない人が対象**で、ターゲットとする病気を発見するために行われます。

- ◎ 実施期間
- 令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日
- ◎ 受診方法
- ① 集団検診 又は ② 個別検診 のいずれか
- ⇒詳しくは別紙案内をご覧ください。
- ◎ 多気町で受診できるがん検診等の種類

実際にかかる費用の約 2 割程度の負担で済むのでお得です！

検（健）診 名		内 容	個別・集団	自己負担金	検診委託料金	対 象 者 (年齢はR 8.3.31 時点です)
どちらか一方	胃がん検診 (内視鏡)	胃内視鏡検査(胃カメラ) (検査中の生検は含まない)	個別のみ	3,100円 (生検は別料金)	15,738円	50歳以上
	胃がん検診 (エックス線)	胃部レントゲン (バリウム)	集 団	1,100円	5,643円	40歳以上
※ 1	肺 が ん 検 診	胸部レントゲン	個 別	2,500円	12,911円	
			集 団	300円	1,705円	40歳以上
		胸部レントゲン + 喀痰検査	個 別	600円	3,440円	
			集 団	800円	4,224円	50歳以上で、喫煙指数 600 以上の方
結 核 健 診※ 2	胸部レントゲン	個 別	1,400円	7,257円		
		集 団	7 月のみ	無 料	4,235円	65歳以上
前立腺がん検診	PSA値の測定 (血液検査)	集 団	300円	1,947円	50歳以上の男性	
		個 別	600円	3,385円		
大 腸 が ん 検 診	便潜血検査(検便 2 日)	集 団	300円	1,540円	40歳以上	
		個 別	900円	4,540円		
どちらか一方を受診ください	乳がん検診 (マンモグラフィ検査)	乳房のレントゲン (個別のみ希望者に視触診あり)	集 団	1,400円	7,381円	40歳以上の女性
	乳がん検診 (エコー検査)	乳房の超音波検査	個 別	1,500円	7,994円	
			集 団のみ 7・9・10 11・1 月	1,400円	7,139円	① 20歳から49歳の女性 ② 昨年度、乳腺の評価が「不均一高濃度」または「極めて高濃度」と評価された方 ③ 50歳以上のペースメーカーやシリコンを入れている等でマンモグラフィを受診できない方
			集 団	1,300円	6,655円	20歳以上の女性※ 3
子宮頸がん検診	子宮頸部細胞診	個 別	1,400円	7,257円		
		集 団	2,992円	6,281円	40歳以上で、これまでに一度も受けたことがない方	
肝炎ウイルス検診 (B 型・C 型肝炎)	血液検査	個別(単独実施)	無 料	6,281円		
		個別(特定健診と同時実施)		4,708円		
※ 4	骨粗しょう症予防検診	骨密度測定	集 団	300円	1,350円	40歳から 69歳の女性
			個 別	500円	2,618円	
その他同時実施	〔国保・後期高齢〕 特定健診 対象の方には別途 6 月末から 受診券とご案内を送付します	問診、計測 (身長、体重、腹囲、血圧) 検尿、 血液検査(貧血、肝機能、脂質、 腎機能、糖) など	集 団	無 料	7,412円	40歳以上の多気町国民健康 保険に加入の方または75歳 以上の後期高齢者医療保険 に加入の方
			個 別		13,160円	
	若年者健診	同 上	集 団のみ 7 月 31 日	1,000円	6,963円	20歳～39歳の職場等で健康 診断を受ける機会がない方

※ 1 痰に血が混じる方は、対象外です。検診ではなく、すぐに医療機関を受診してください。
喫煙指数 = 1 日に吸うタバコの本数 × 喫煙年数

※ 2 65 歳以上の方は、感染症法により、年 1 回の結核健診を受けることが義務付けられています。

※ 3 性交渉の経験のない方は、子宮頸がん発生の大きな原因となる HPV の感染機会がありませんので、子宮頸
がん検診の必要性は低いです。また、集団検診においては対象外となります。
症状等があり受診を希望される方は医療機関への受診をおすすめします。

※ 4 骨粗しょう症予防検診については、非課税世帯の方は検診時に証明書を提出していただくと無料となります。
ご利用の方は事前に、お問合せください。



がん検診無料クーポンのお知らせ

下記に該当する方は、無料で検診を受けることができます。
令和 7 年度検診期間中にご利用ください。次年度には使用できません。

検 診 の 種 類	年 齢	対 象 生 年 月 日
子宮頸がん検診	21 歳	H16 年 4 月 2 日～H17 年 4 月 1 日
乳 が ん 検 診	41 歳	S59 年 4 月 2 日～S60 年 4 月 1 日
肺・大腸がん検診	40 歳	S60 年 4 月 2 日～S61 年 4 月 1 日
	50 歳	S50 年 4 月 2 日～S51 年 4 月 1 日
	60 歳	S40 年 4 月 2 日～S41 年 4 月 1 日

※年齢は年度末年齢です。
※対象の方の受診券には、表面項目に「無料」と印字されています。



各種がん検診を受診される方へ



なぜ、がん検診を受けないといけないの？

がんは、日本人の**死亡原因の第 1 位**となっており、**日本人の 2 人に 1 人ががんにかかり**、4 人に 1 人はがんで亡くなっています。無症状のうちにがんを早期に発見し治療することで、**がんで死亡するリスクを減らす**ことができます。がん検診では、無症状の早期のがんを発見することができ、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

がん検診にはどんな種類があるの？

日本で推奨されているがん検診は、以下の **5 種類**です。
これらのがん検診の方法は、その有効性が科学的に証明されている検診です。また、有効性に加えて、検診のメリットとデメリットのバランスを検討して、対象となる年齢や受診間隔が定められています。

種 類	検 診 方 法	対 象 者	受診間隔
胃	内視鏡(カメラ)	50歳以上	2年に1回
	エックス線(バリウム)	40歳以上	1年に1回
肺	胸部エックス線検査	40歳以上	1年に1回
	および喀痰細胞診		
大 腸	便潜血検査(検便)	40歳以上	1年に1回
子宮頸部	細胞診および内診	20歳以上	2年に1回
乳 房	乳房エックス線検査(マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回

◆ がん検診の効果について

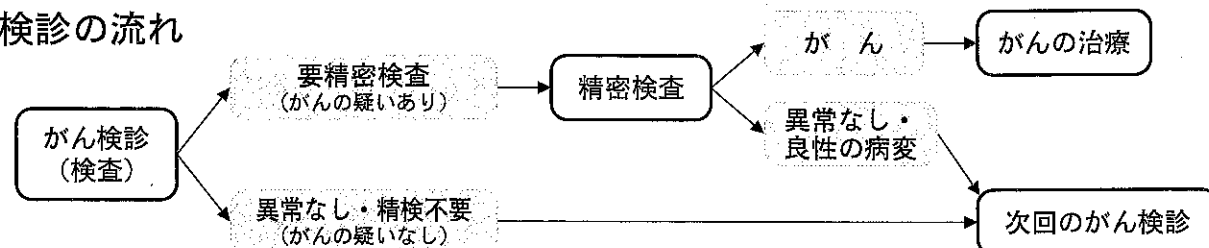
2023年に死亡数の多かったがん第 1 位は肺がん、2 位は大腸がん、3 位は膵臓がん、4 位は胃がんです。
胸部エックス線検査及び喫煙者への喀痰細胞診による肺がん検診、便潜血検査による大腸がん検診、胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査による胃がん検診、マンモグラフィ検査による乳がん検診、細胞診による子宮頸がん検診は、早期発見・早期治療により死亡率を減少させる効果があることが認められています。
ただし、いかに効果の高い検査であっても、100%の精度でがんを見つけられるわけではありません。今回異常が見つからなくても、定期的に受診すること、症状がある場合は医療機関を受診することがとても重要です。

精密検査について

◆「要精密検査」となったら必ず受けましょう。

「がんがある」「がんがない」ということが判明するまでが、がん検診です。そのため、検診を受けて終わりではなく、検診結果が「要精密検査」となった方は、必ず精密検査を受けてください。「要精密検査」という結果が出て、がんである場合と、そうでない場合があります。左記に標準的な精密検査の概要についてご紹介します。

がん検診の流れ



※ 今までの検診の結果が「経過観察」となっている方は、かかりつけ医とご相談の上、定期的な受診をしてください。

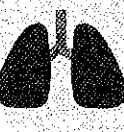


胃がん検診の精密検査

胃部エックス線検査の精密検査は、ほとんど胃内視鏡検査が行われます。胃内視鏡検査の精密検査は、内視鏡の再検査や、生検(病変の一部を取って検査する)があります。

【胃内視鏡検査】

胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。小さな病変を直接見つけることや、病変の一部をつまみとり、細胞を採取してがんかどうか調べる検査を行うことができます。内視鏡を口や鼻から挿入するため、喉や鼻の麻酔、鎮静剤や鎮痛剤、鎮痙剤(胃の動きを抑える薬)などの注射を用いることがあります。



肺がん検診の精密検査

【胸部CT検査】

病変が疑われた部位を、CTによって詳しく撮影します。CTは体の周りからX線を当てて、体の断面像を観察する検査です。病変をより鮮明に写し出すため、造影剤を注射することがあります。

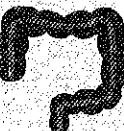
【気管支鏡検査】

気管支鏡を口から気管支に挿入して、病変が疑われた部位を直接観察します。必要に応じて細胞を採る検査をすることがあります。採取した細胞は、悪性かどうかを診断します。(喀痰細胞診で要精密検査となった場合は、喀痰細胞診以外で検査をすることが適切とされています)

＜肺がん と タバコ の関係＞

肺がん予防には、禁煙や受動喫煙防止が重要です。喫煙は肺がんの危険要因の1つです。喫煙者は非喫煙者と比べて男性で4.4倍、女性で2.8倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほど肺がんになる危険性が高くなります。受動喫煙は肺がんになる危険性を2～3割程度高めると言われています。

★ タバコ相談受付中!! 詳しくは、多気町 健康福祉課まで ★



大腸がん検診の精密検査

【全大腸内視鏡検査】

第一選択の検査方法です。内視鏡を挿入し、直腸から盲腸までの大腸の全部位を撮影し、がんやポリープなどの病変がないかを確認します。大腸の中の小さな病変を見つけることが可能です。必要に応じて、大腸の粘膜の細胞を採り悪性かどうか診断することがあります。検査の準備として鎮痙剤(大腸の動きを抑える薬)や鎮痛剤の注射が必要です。

【注腸エックス線検査】

全大腸内視鏡検査が困難な場合に選択されます。肛門からチューブを挿入してバリウム(造影剤)と空気を注入し、大腸の全部位のエックス線写真を撮影して、がんやポリープなどの病変がないかを確認します。体の向きを変えながらさまざまな方向から撮影します。がんの多い直腸、S状結腸がしばしばみえにくくなるため、S状結腸内視鏡検査を併用します。

(便潜血検査で要精密検査となった場合は、便潜血検査以外で検査をすることが適切とされています)



乳がん検診(マンモグラフィ)について

◆がん検診の効果について

乳がんは、2023年の統計では、がんの中で日本の女性の死亡数において第4位となっています。乳がんは早期発見により適切な治療が行われれば、良好な経過が期待できます。マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がん死亡率を減らすのに有効であることが科学的に確認されています。検診を継続的(隔年)に受診することの他に、プレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)や症状がある場合は速やかに医療機関を受診することが大切です。

●乳がん検診の精密検査

精密検査の方法は、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、穿刺吸引細胞診や針生検などがありますが、その方法は、“疑わしい病変の部位”“悪性の可能性の有無”により選択されます。

【マンモグラフィの追加撮影】

通常の検診と同じ検査方法ですが、病変が疑われた部位を詳しく観察するため、多方向から観察します。

【乳房超音波検査】

超音波により、病変が疑われた部位を詳しく観察します。乳房の表面から超音波を発生する機器を当て、超音波の反射の様子を画像で確認する検査です。

【穿刺吸引細胞診、針生検】

しこりなど疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して中の細胞や組織を採取し、悪性かどうか調べます。

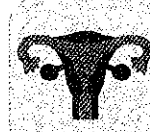
◆乳がん(マンモグラフィ)を受診したときに分かる乳房の構成…高濃度乳房について

乳房は主に乳腺と脂肪からできていて、この割合は個人によって異なります。そして、この乳房の構成はマンモグラフィ検査によって「脂肪性」「乳腺散在」「不均一高濃度」「極めて高濃度」の4つに分類できます。この分類が「不均一高濃度」や「極めて高濃度」の場合、高濃度乳房と呼ばれます。乳房の構成は年齢や出産、生活習慣などの影響を受けます。

乳がんマンモグラフィ検査では、乳房を撮影すると乳腺は白く、脂肪は黒く写ります。高濃度乳房では乳房の中の乳腺が多いため、乳房が白く写ります。乳がんなどの乳房の病変は白く写ることが多いため、高濃度乳房では白い乳腺の陰に病変が隠れることがあり、がんが見つかりにくいと考えられています。ただし、がんが全く検出できないということではありません。高濃度乳房だけでなく他の乳房の構成でも、マンモグラフィ検査や超音波検査などの様々な診断方法を用いても、100%乳がんを発見できるわけではありません。

●高濃度乳房であった場合の対応

高濃度乳房であるからといって、追加で検診を受けるなどの特別な対応が必要となるわけではありません。高濃度乳房であるかどうかに関わらず、がんを早期発見するために月に1回の乳房の自己触診や、定期的ながん検診の受診が大切です。また、しこりがあるなど、なにか症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。



子宮頸がん検診について

◆がん検診の効果について

子宮頸がんは罹患する人(かかる人)は、わが国の女性のがんの中でも比較的多く、また30～40歳代の女性で近年増加傾向にあります。早期に発見すれば比較的治療しやすく予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいことから、早期発見が極めて重要です。細胞診による子宮頸がん検診は、科学的に、がん検診として効果があると評価されており、検診の実施による死亡率の減少が明らかになっています。

●子宮頸がん検診の精密検査

精密検査の方法は、コルポスコプ下の組織診やHPV検査などがありますが、その方法は“疑わしい病変の部位”、“悪性の可能性の程度”により選択されます。

【コルポスコプ下の組織診】

コルポスコプ(膣拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。

【HPV(ヒトパピローマウイルス)検査】

子宮頸部から細胞を採取し、HPVに感染しているかどうかを調べます。子宮頸がん検診の細胞診の結果によって、コルポスコプ検査が必要かどうかを判断するために実施されることがあります。

参考：国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター <http://genjoho.jp/>

検診結果は、多気町に報告されるとともに、結果に基づいて検診実施機関や多気町が精密検査の確認等のご連絡をさせていただいたり、精密検査実施機関から必要な情報を提供頂くことがあります。検診実施機関が確認した精密検査結果は、多気町に報告されます。